

日本山岳会 越後支部報

第 44 号

令和7年10月15日

発行 公益社団法人日本山岳会越後支部

発行者 後藤 正弘

新潟県上越市新光町2丁目1-40

TEL・FAX 025-512-7561

広報委員長 諏訪 恵一



私の一枚

昨年の夏、ずっと憧れていた霞沢岳登山の機会がありました。

長丁場でドキドキ、ワクワクで心配でした。

早朝暗闇の中出発し、途中素晴らしい日の出に出会い思わず撮影した1枚です。美しい日の出は、この先の登山に大きな力をもらい、山頂に立つ事が出来ました。

ジャンクションピークからの日の出です。

撮影者 滝沢 信子

越後支部活性化プロジェクトにご支援を！

越後支部活性化プロジェクトリーダー

副支部長 佐久間 雅義

5月の妙高における総会で、後藤支部長の2頁にわたる熱の入った提案書「リーダー養成講座と登山教室」が提示され、越後支部活性化プロジェクトとしてスタートしました。

目的…次世代を担う人材を組織的に育成し、支部活性化を図る。対象は原則として65歳以下の会員(27名)を対象とします。但し組織的な取り組みの観点から、広く会員への参加を呼び掛ける。

登山教室は、広く市民に登山の楽しさや安全の為に技術、自然保護の大切さ、越後の山の魅力や歴史について共有し、登山の普及を図っていく。

このプロジェクトは今年からスタートし、3か年計画で実施して令和9年度に亘り、本部の補助金も頂いております。

以上の考え方の下、越後の特性を生かした山登りの育成コンセプト作りを行いました。越後の山の特徴は、ドカ雪、藪山であり、四季がはっきりしていて、季節毎の景色が楽しめます。特に重苦しい曇天から開放された、青空の下春先の山々は、山毛櫨の竹色が目に眩しく、ワクワクします。

その頃の春山は登山道は残雪に覆われ、沢筋は底雪崩の危険があります。「晴れば天国、降れば地獄」の形容が当たります。

昨今の登山アプリの進歩、ネットによる登山情報があふれる中、普通の登山道のある山なら、体力と気力が有れば、誰でも山登りが楽しめます。

そこで、越後の残雪期に強い「山や」

になる―1人でガスに巻かれながらも、生還出来る岳人を養成する―を目標にしました。

後藤支部長よりプロジェクトに選抜をされたメンバーは、事務局も含めて10名です。全県に渡っておりますので、対面実技とZoomによる会議を実施しています。

職業もバラバラ、交代制勤務のメンバーもあり、全員が揃う事は出来ないませんが、活動を進めております。

1年目で次期リーダー候補が勉強する技術・スキルは、地図読み、救急手当、天気予報(雲と空)、登山アプリの使いこなし、リーダーシップも含めた一緒の雪山登山等を計画しております。

それ以降の2から3年目は、登山教室の開催ですが、登山には、技術と経験値の集積が必要であります。技術はYoutube等で学べますが、勘所(危険予知能力)等の経験値を学べる事を主題に実践主体の教室をイメージしております。

経験値の最たるモノは、遭難寸前の状況を想定して、登山計画に組み込んで行く能力、実際の厳しい現場で使える技術の選択枝数を増やしていくことです。そのために、座学1回、実践2回等を基本に据えて計画を作成する予定です。

人の失敗は蜜の味と言いますが、自分の痛い失敗数が力量を育てます。

このプロジェクトへのアドバイスとご支援を！又ご意見もご自分の失敗談も大歓迎です。

皆様のお力添えを期待しております。

高頭祭報告

事業委員長 小山 一夫

今年の高頭祭は、柏日本山岳会副会長はじめ神崎忠男氏と八木原國明氏や他支部の多くの会員をお迎えして、炎天下の中60名参加で開催しました。献花・献酒のセレモニーのあと、桐生前日本山岳会副会長より「日本山岳会創立120年と高頭仁兵衛」と題して記念講演がありました。

第1回目は1950年（昭和25年）7月2日寿像碑の竣工を記念して、初代越後支部長の藤島玄をはじめ支部会員10名参加で開催しました。高頭祭も年々参加者も増え今年で68回を迎えることができました。寿像碑は、建設当時には弥彦山山頂にありましたが御神廟への社務所建設により、現在の大平園地に移転して支部主催の高頭祭になりました。

第2回1954年（昭和29年）7月13日に、第1回たいまつ登山と新潟県登山祭と同時に開催され、高頭祭終了後に松明に点火して、御神廟を一周して下山を開始しました。竜が降りるように平野から見えたそうですが、樹林が大きくなり見えなくなりしました。

年々盛大になり150名以上の参加者で、高頭祭68回、たいまつ登山祭は70回を迎え、新潟



参加者全員で記念撮影

の岳人が全国に誇れる登山祭になりました。
高頭祭&たいまつ登山に参加して

杉田 和美

弥彦ロープウェイ山頂終点駅から高頭仁兵衛翁寿像がある新潟平野を見下ろす大平園地に到着すると、猛暑の中、大勢の参加者が広い芝の上で腰をおろし賑わっていました。

第68回の高頭祭の式典を終え奥の院にて安全登山祈願後は、いよいよ最大の目的であるたいまつ登山の行進です。

夕暮れ前の奥の院広場からは、式典が行われた大平園地や多宝山に日本海が見渡せ、これから始まるたいまつ登山にワクワクしている参加者の熱気と、松明の灯油の匂いが充満していましたが、私の心は松明を持って早く灯火の中を歩きたい気持ちで先走っていました。

18時 手作りの松明が各自手渡されます。松明を持って下山するので、私は軽そうな細めの木の松明をチョイスしました。山頂から点火はせずに日没に合わせ、五合目付近で先頭から順次に火が回ってきます。

私の松明に火が灯った後は無邪気な気持ちになり、何度、手に持っている松明の火が消えていることを確認したでしょうか。



たいまつ行進

火が回った事を確認後に一斉下山。風通しのない樹林帯は、全員の松明に火が灯ると一層に暑い熱い。

はてった身体は下山する頃には、完璧に蒸しあがり状態です。

辺りは暗くなり、登山道に沿ってジグザグに松明の灯火は途切れることなく揺らぎ点に在している光景は、弥彦山を舞台にした撮影現場さながらの見応えのあるもので、参加者だけが味わえる醍醐味でしょう。

下山後は新しい松明に交換し、弥彦神社境内へと向かい参拝したのち、ボーイスカウトの鼓笛隊の先導で、神社から弥彦駅前までの温泉街の中を行進します。

それと同時に夜空を彩る大輪の花火が舞うと、お祭りは最高潮に達しました。

沿道の方々から拍手で出迎えられ、「お疲れさまあー」と声をかけられ、山中とはまた違った雰囲気の中で松明を持って下山しただけなのに、こんなにも多くの人たちに感動してもらえたとは、他にも良いことでもしたかのような錯覚と優越感に浸りながらの行進でした。

鼓笛隊や花火の音、沿道の歓声が私の身体の中にいつぱんに飛び込み高揚感に満ち溢れた頃、弥彦駅前に到着し記念品を頂き解散です。

何度参加してもこの感動は心に響くものがあり、私の夏の風物詩になっしまいそうな予感です。



彌彦神社本殿前にて

本部副会長の退任挨拶と活動報告

顧問 桐生 恒治

6月21日の令和7年度日本山岳会定例総会をもって、本部副会長（理事）を退任致しました。定款で理事就任年齢規制があり、私は就任時了解のもとで1期2年間の期間を精一杯務めてきました。

同時就任した第27代会長橋本しをりさんは、初の女性会長として新鮮な息吹を吹き込んでおり、その橋本体制を支えて会務運営に尽力してきました。越後支部皆様には、在任期間中のご協力とご支援に深く感謝申し上げます。退任挨拶として本部での活動状況を報告させていただきます。

日本山岳会には活動基盤となる24の委員会組織があり、海外登山助成委員会・支部事業委員会・自然保護委員会の執理事務として統括管理を担当しましたが、その活動状況は以下の通りです。

1 海外登山助成委員会は、コロナ禍で停滞した海外登山を再び活発化して、助成金補助を通し若手登山家の育成に努めました。海外登山報告会を再開し、2024年3月16日と2025年3月15日に開催し、いずれも会員である天皇陛下からご臨席いただき説明役を務める経験をしました。

2 支部事業委員会は、全国33支部の活性化と会員増強目的で支部事業助成金活用を推進しました。残念ながら会員減を阻止するまでには至らず、今後も継続協力して行きます。各支部との交流で理事派遣依頼書を作成し、多くの理事が支部と交流を深めるようにルール化しました。個人的には、群馬支部、神奈川支部、北九州支部・信濃支部・山梨支部行事に参加しました。

3 自然保護委員会は、コロナ禍で自然保護全国大会の中止が続きましたが、一昨

年高尾山と昨年新宿御苑など東京近辺で再開しました。今年2025年に妙高市と越後支部の協力を得て、妙高高原を会場に10月18・19日実施予定で、越後支部とのパイプ役を務め成功させたいと思います。

更に、会長特命事項として下記事業を担当し、一部は現在も担当継続しております。

4) 昨年2024年7月にアジア山岳連盟(UAA)30周年記念事業の日本開催で、主管の日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSPA)より協力依頼があり対応しました。当会創立発起人高頭仁兵衛翁の出身地長岡市を記念式典会場とし、現地イベントで弥彦村での高頭祭とたいまつ登山祭に海外70余名と全国1000余名が参加し、越後支部の協力で大成功に終えることができました。

5) 本年2025年に日本山岳会創立120周年を迎えるに当たり、記念事業実行委員会に国際交流プロジェクトを立上げ記念講演と祝賀晩餐会を企画しています。講演はヨッヘン・ヘンレム氏に、「偉大なるエベレストの謎―日本山岳会との関わり」と題し、1924年第3次エベレスト隊で頂上を目指し消息不明となったG・マロリーの遺体・遺品の発見者であり、その調査研究第一人者として講演をお願いしました。更に日本山岳会が過去親しく交流してきた海外登山団体約10団体約20人程度を招請して親睦を深め、国際交流の絆を若手に引き継ぐ機会とします。12月6日(金)に東京新宿京王プラザホテルで開催しますので、越後支部皆様からも多数の参加をお願いします。

老山岳会は何を残すのか

自然保護委員長 春日 良樹

「笹ヶ峰高原オオハンゴンソウ駆除活

動報告と駆除の意義について、原稿をお願いします」というメールが広報委員長から届く。「火打山の調査と重なり笹ヶ峰のオオハンゴンソウ駆除には参加できません。参加者に書いてもらえるとよいのですが、今のところ参加希望は0名。困りましたね。オオハンゴンソウの特性や外来種駆除の必要性でしたら書けないこともありませんが、どうしたものか」と返信し、今、この原稿を書いている。会員の多くが老人で、ホームページの告知覧を見ないのか、目減りする年金生活で旅費の工面も難しいのか、それとも単に興味が低いだけなのか。3年前から参加者が3名を超えたことはない。当支部は山登りの団体で環境保護団体ではないのだから当然で、それでよいのだろう。

笹ヶ峰のオオハンゴンソウの駆除活動は、10年以上継続しているが完了しない。本種は、北アメリカ原産で、湿潤地や冷涼な高地、日影地でも生育できる。種子と地下の根塊で増殖。種子には、すぐに発芽するものと、埋土種子(シードバンク)とあって長期間休眠し生育適期に発芽するものがある。絶滅を回避する生存戦略である。本種の駆除の在り方について実験的に調べたが、一株に2368個の種子が付き、発芽率は水栽培で41%。根塊は1cmにまで切り刻んでも再生する。根の先端に小さなイモ状の塊ができこれも発芽。葉を観察すると、ケムシやハムシによる食害痕が極めて



オオハンゴンソウの花

少なく、糸状菌類を除き、まだ天敵がいらないのかも知れない。外来生物法で特定外来生物に選定される所以である。



1cmに切り刻んでも再生

タフな相手だが、遮光シートで1年間被覆すれば地上部や地下部を枯らすことが可能。また、年に3〜4回、刈り続ければ、株の生長を抑制し分布の拡大を防ぐことはできる。しかし、実験とは異なり、自然の中では他の植物が邪魔になって一筋縄ではいかない。当支部が弥彦山で継続しているフランスギクの駆除と同様に、「根こそぎ取り焼却」することが最善の策なのだろう。妙高市のオオハンゴンソウは、妙高山や火打山の高山を除き、標高50mの市街地から標高1350mの笹ヶ峰杉野沢橋付近まで全市に分布。開発で攪乱されると、建設資材や建設用土への混入、人々の靴底や増え過ぎた鹿・猪などの獣毛に付着、風による飛散などで種子や根塊が運ばれ、発芽すれば、在来種に先んじて群落を形成する。その群落から種子が供給され続けるため、根絶することは不可能に近い。

便利な生活と引き替えに、オオハンゴンソウを全市に広げたのは私たち老人世代である。自然公園法には、「国立公園は、次の世代も、私たちと同じ感動を味わい楽しむことができるように、すぐれた自然を守り、後世に伝えていくところで」と、設置の目的が唱われている。残り少ない未来に向けて、壊してしまった日本の自然を少し元に戻し、次世代に残すことが、私たち老人には求められていると思うのだが、どうだろう。

地域の山

鯨鼻山(くじらがはなやま)

(505.2m)

藤井 与嗣明

新潟からの船が姫崎灯台近くになる頃、いよいよ佐渡だとトレッキングと思われる乗船客が騒いでいる。先ほど大佐渡の山々が北の方向に望まれたよ、「佐渡って大きいのね」。そんな会話から「見て、こちらが小佐渡の山だわ、変わった山ね」、「何と言う山だろう、名前があるのかな」。そばにいた私は、思わず「どんな山に見えますか」と尋ねると、「何んだらう」、「波のあいだから潮を吹いて、現れた鯨のように見える山だね」、「鯨鼻山と言う山です」と返答すると、「確かにそうだ」と地形図を見ている。

鯨鼻山は小佐渡山系の北東部にあって、山頂の所在地は前浜(越後側)の片野尾集落字ト子、三等三角点「点の名称・鯨鼻」、俗称岩ノ上。文献からは本荘了寛著『新訂佐渡図』(明治27年発行)に「鯨ヶ鼻山」とある。

両津湾側は大川集落、同集落の木村秀昭さん(1933〜2021)は、大川集落沖から望むと神主がかぶる烏帽子に似ているから、「烏帽子形山」と言っているとのこと。

『水津村史料編年記』(昭和29年発行)に「元応2年(1320)に大川と羽二生、水津、片野尾の境界を定めた記録あり、「くじらがはなの」とね」、「くじらがはなのうし」とらのとね」とある(註1)。鯨鼻山の異様な山容は漁場や境界の目標(シンボル)となつたと考えられる。

また、平成17年にJ・A新穂支店次長であった田中政一（昭和27年生まれ・大川集落）さんからは、この「鯨鼻山は潮を吹く山だ」と聞くことができた。「山が潮を吹く面白い」。山頂近くの大川集落側に洞窟があるとのこと。

木村秀昭さんは、高校の先生がこの洞窟の調査をし、奥行が大人が両手を広げて七尋半（概ね13・5m）あって、中へ緩く傾斜している。入口が崩落して、洞窟に入るのに大変な状況だと話されていた。

平成元年11月に、佐渡山岳会々員であった故永井武さん（新潟市山木戸）が、この山に興味をもって、山の名称や登山ルートをお教えしたことがありました。いただいた報告から、永井さんは片野尾のお年寄りに、鯨鼻山について尋ねていますが、不明とのことでした。また、下山途中に「中腹より少し下に垂直に削られた岩場の様なものが目に入る。岩ノ上と言う、その岩ではないか」とレポートされている。地形図を見ると東から南に異常なほどに等高線を呈している。

この頃、新潟日報に大川集落の野城から四十八カ所越となる県道赤玉・両津港線へ林道小佐渡2号線の開設計画が掲載された。林道が開設される前に、この小佐渡の北

東部の山を踏査したい。岩ノ上と言うルートの片野尾側は、安山岩質の大きな崩落石があつて、こうした岩盤の亀裂から、風穴が考えられた



潮を吹きながら現れた鯨のような山容

がどうであろうか。

この鯨鼻山の特徴について、小佐渡で一番高い大地山（おおじやま645・8m）周辺から、主稜線に沿って続くユキツバキの群落が、この山近くで終



苔に覆われた三角点 提供：渡部陽子

えることである。なお、山頂は他の小佐渡の山に同じく、三角点周辺はクロモジ、ヒメアオキ、ナナカマド、ホオ、コナラ、ハイイヌガヤ、ヤマモミジ、サワフタギのブッシュに囲まれ、晴天であれば対岸の角田山や弥彦山が大きく望まれた。

私にとって、この鯨鼻山は平成10年4月25日に訪れているが、訪れる登山者などはいないのであろう。三角点は苔（こけ）に覆われていました。

なお、林道が開設されないうちに、平成12年5月4日・5日に「四十八カ所越えから鯨鼻山へ」一人で歩くことができた。

三角点には紅白の国土地理院の旗が置かれていた。

鯨鼻山周辺に水場はなく、両尾越にビバークを考えるべきで、翌5日に両尾集落へ下山となった。

また、平成17年4月30日に、両尾集落より2人で「鯨鼻山から水津集落へ」歩くことができた。

なお、片野尾集落の県道佐渡一周線沿いに鯨の供養塔がある。また、椎泊集落には鯨の墓があるとのこと、近日に確認したい。（註1）うしとら・東北の方向（広辞苑）

みちのく随一の霊峰鳥海山 2236m登山

江口 健

秋田・山形県にまたがり、秀麗な山容を誇る鳥海山登山を行った。別名「出羽富士」、東北唯一の独立峰である。ブナ、ナラなどの豊かな樹林からの湧水地や池沼、瀑布が点在する。数多くの景勝地があり、国定公園である。

8月2日 天気は快晴。新潟ふるさと村に、9時30分集合。3台の車で湯ノ台コース登山口（車道終点）へ向かう。途中、酒田の観音寺で宴会用の酒・食料等を購入。約200km走行して3時40分車道終点到着。すでに数台の駐車有。

鳥海山登山コースは、東西南北数多いが、新山まで最も短いのは、この春、スキー同好会が行った秋田県側からの被川・矢鳥口コースで5・1km。次いで短いのが山形県側からの湯ノ台（車道終点）で5・3kmである。

行きも帰りも立ち寄った道の駅あつみ「しゃりん」の次の道の駅は、鳥海「ふらつと」。ふらつと立ち寄って欲しい気持ちは察する。鳥海山登山の標語「標高0mから2236m」。

ふらつとは、カタカナで「フラット」すなわち0である。0mである。海拔0mから登れるのだ。ここから、鳥海山大物忌神社吹浦口之宮、そして鳥海ブルーラインを通り、大平山荘吹浦登山口へ。古の人に帰り、いつか機会があれば挑戦しますか。角田山の灯台コースとは、高度差約5倍弱以上だ。

宿泊は、車道終点にある唯一の施設。計画ではテント泊を予定していた。1Fはトイレで、2Fの展望施設をお借りすることができた。快適でした。日が暮れるまで余

りがあるが、行うことは何もないので、早速、ビール・焼肉等で宴会。すごい満腹感でした。暮れる前に寝具の準備、そして就寝。猛暑が予想されるため、「出発は予定の4時30分から4時へ変更」との事。

皆さん、よく眠れたのか、部屋の掃除を行い、4時頃ライトをつけ出発する。登山口で登山カードを提出。最初はブナ林の緩やかな道で、切石も並べられ歩きやすかった。沢を渡ると20分程で滝ノ小屋に着いた。ここで体調を整える。本来、湯ノ台コース登山口は、湯ノ台集落から始まるルートであり、新山までは9・4kmとある。下山後に入浴した湯ノ台温泉「鳥海山荘」は登山拠点施設として利用されている。

七合目河原宿小屋まで標高差約300mの急登で「八丁坂」といわれている。八丁坂は、斜面いっぱい高山植物の咲く名所です。黄色のトウゲブキ、紫色のハクサンシャジン、ヨツバシオガマ等、一面のお花畑が目と和ませてくれた。

河原宿小屋は、崩壊で使用不可ですが離れのトイレは可。小屋付近で大雪渓から流れ出た水場で朝食を摂る。

山頂方向を眺めるとこれから登る大雪渓、小雪渓、薊坂等素晴らしい眺望が広が



鳥海山 七高山山頂にて

ります。周辺にはニッコウキスゲ、チングルマの群落が広がり、目を楽しませてくれました。枯れているチングルマも朝日で輝いて素敵でしたよ。

さて、心字雪溪に入ります。大雪溪は左寄りに登り、中間地点ではロープに従い右に渡って小雪溪に取り付き、高度を上げていきます。滑落するような雪溪ではない。振り返れば月山もはっきり見えた。帰り際、雪溪では単独でスノーボーを楽しむ人有。

雪溪が終わると、湯ノ台コース一番の難所とされている「薊坂」です。下から見上げた限り30度の勾配はない。その名の通りチョウカイアザミが咲き誇っています。ゆつくりと急坂を登り切れば、九合目伏拝岳の分岐到着。ここまで登ると一気に目の前に絶景が展開します。新山ドームの黒い全容、大物忌神社、千蛇谷、そして鳥海湖も見られました。伏拝岳からは、外輪山コースを行います。イワウメ等を見ながら行者岳、外輪ケルン分岐付近では、鳥海山のシンボル、チョウカイアザミ等を見ながら、新山に次ぐ標高2230mの七高山へ。眼下には何ひとつささぎるものがない、360度のパノラマが広がり、豪華な景観で、感動の場所です。

七高山より、新山外輪分岐に戻り、希望者5名で新山ドームを目指しました。山頂へは、御室付近まで下り、溶岩の岩肌ペンキで矢印を示してあるので、それに従い安全を期して登る。「胎内」と呼ばれる大岩の亀裂をぐぐり抜け、岩肌を登ると山頂に到達。一坪程度の狭い場所。よって、写真撮影はちよい待ち。七高山頂上同様、眺めは最高。はい、ここでミッション完了です。長居はできず、下山開始。

下山時、最後の大休憩は、大雪溪直下の流水場。早速、冷水を手ですくい顔を洗うと、少年時代の夏山、特に沢での感覚を思

い出しました。とにかく、「手が切れるように冷たい」、冷水を浸した手拭いを後頸部にあてる「体の芯まで凍えそう」でした。本当に久しぶりの感覚を取り戻しました。

14時30分、全員滝ノ小屋駐車場に到着。終了は、新潟黒崎ふるさと村19時30分。そして、解散。

今回の山行を企画されたリーダーの渡辺 茂さん、副リーダーの廣井博行さん、先達を務めてくれた多田政雄さん、そして参加された多くの岳人方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

新入支部会員紹介

新たに越後支部へ入会された皆さんです。自己紹介をしていただきましたので、支部山行以外でも山でお会いしたらお声がけをお願いします。

なお、支部入会順に敬称略で紹介いたします。



玉木 有紀子

会員番号17478

新潟県の中山間地、過疎・高齢化の進展

に参加し20年超。この間、自然と折り合いをつけながら暮らしてきた先人たちの智慧、人々の生活の奥行きに学ばせて頂くこと、体感、体験することの面白さ、誠に多く。

そして、峰高き山々は、里山から仰ぎ見ることと充分に楽しめる存在。でしたがなぜか、高い峰々にひよいひよいと登っておられる先輩方に言葉巧みに誘われ、この度入会させて頂きました。

劣等生極まりない会員ですが、どうぞ宜しくお願い致します。



山森 由枝

会員番号17489

今年度より日本山岳会越後支部へ入会することとなりました。

2013年に初めて火打山に登って以来山の楽しさに目覚め、その後、信越トレイルとも出会い、衣食住を背負って歩く旅に

「みまもり機能」を使ってみよう

諏訪 恵一

山と溪谷2025年9月号に特集「新・登山アプリと読図の基本」で登山アプリのいろいろな機能や使い方、主なアプリの比較が紹介されていたが、今回は山の行動の際に自身の安全のために利用する機能ではなく、無事な帰りを心配しながら待つ家族や山仲間を安心させる機能を紹介しよう。

登山アプリYAMAPに搭載された機能で、家族や山岳会など予め登録した人に自分の現在位置や行動経路を伝えることができる「みまもり機能」だ。

この機能は、自分の山での行動中の位置情報を見て欲しい家族などのメールアドレスをアプリに登録すると、アプリを起動して登山を開始した時点で「みまもり機能」——〇〇さんの位置情報のお知らせ——というメールが登録先に送られてきて、メール本文に記載されたURL（リンクアドレス）をクリックするといつでも画面に表示され、地図上で自分の最新の位置と行動経路を確認してもらえる。

も楽しみを感じています。

現在は本業の仕事の休みの時間を利用し、信越トレイルの専属ガイドや、国立妙高青少年自然の家での自然観察指導員など、自然に多く関わらせていただいています。

登りはゆつくり、下りは大好き、ほぼ亀の歩みですが、いろんなことを学びながら、皆様と安全に楽しく山を楽しみたいと思います。

皆様、どうぞ宜しくお願いします。

無事下山し、アプリを終了すると「みまもり機能——〇〇さんの山歩が無事終了しました」というメールが登録者に送られる。

その上、携帯電話の電波が届かない山中の行動中であっても、YAMAPユーザー同士がすれ違った際に自動でそれぞれの位置情報などが交換され、いずれかが電波の



届くエリアに入った時に、その情報がYAMAPのサーバーに送信され、たとえ自分が電波の届かないところにいたとしても登録者は位置情報や移動経路を確認することが可能になる。

なお、この機能は無料で利用できるのですが、心配しながら自分の帰りを待って帰る家族を安心させるためにも一度試してはどうだろうか。

最近メールは使わなくなったという人には、有料会員向けサービスとしてLINEへの通知も設定可能だ。

最後に、YAMAPホームページからの引用で「みまもり機能」の設定方法を記載しておくので参考にしてほしい。

【設定方法】

①YAMAPアプリを起動

②「マイページ」▼右上の「歯車アイコン」

▼「みまもり機能」

または「地図」▼「設定画面」▼「みまもり機能」

③通知先をタップ

④希望の通知先をメールアドレスやLINEで登録

⑤登録するとみまもり機能が有効になります

※LINE登録はYAMAPプレミアム

ユーザーのみの特典機能です

この度、越後支部ホームページをリニューアルし、トップページ画面上部のメニューから簡単に閲覧したいページに移動できるようになりました。

越後支部ホームページにアクセスすると、まずトップページに最新情報が一覧で表示され、必要な情報を見つけやすくなりました。

支部ホームページをリニューアル

広報委員会

また、既に掲載された情報も上部メニューの「活動紹介」から、「お知らせ」「事業報告」「山行報告」と選択すると必要な内容だけを表示させることが可能になりました。

越後支部報も画面上部に表示されたメニューから「支部報」をクリックすると支部報一覧が表示され、読みたい号を選択できますし、表示されたものを印刷や拡大表示することも可能です。第36号からは写真がカラーになっており、送付される紙面より見応えがあると思います。

新しくなった支部ホームページには是非一度アクセスしてみてください。

新しいアドレスは次の通りです。
<https://shibujact.or.jp/echo/>

なお、今までのホームページをブックマークしている方は登録の変更をお願いいたします。

QRコード



スマホ画面



パソコン画面

メーリングリストのご案内

広報委員会

越後支部では、支部ホームページが更新された際の案内や緊急なお知らせをメーリングリスト（メールの一斉発信）に登録された方全員にメール配信しています。

メーリングリストに登録を希望される方は事務局宛にメールにて「メーリングリスト登録希望」とご連絡ください。

折り返し登録確認のメールが届きますので、登録承認の操作をしていただくことで、メーリングリストに登録され、お知らせのメールが配信されますので、ぜひご利用ください。

事務局のメールアドレスは次の通りです。
ecg@jact.or.jp

なお、既にメーリングリストに登録されている方は改めての登録は不要です。



事務局からのお知らせ

●支部会員動向（令和6年10月～12月）

1 新入会員 なし

2 退会会員 なし

鈴木 壮一（会員番号141191）

支部会員数（令和7年9月4日現在）

支部会員（準会員含む）141名

支部会友 8名

●支部会費の納入について

今年度の支部会費につきましては、大半の会員の皆様から納入していただいておりますが、8月末現在、一部の方が未納となっております。支部会費未納の方は早急に支部口座への振込をお願いします。なお、払込取扱票で振り込まれる際は必ず通信欄に住所、氏名を記入してください。（令和7年4月以降入会された支部会員は、今年度の

支部会費は免除されますので、来年度以降から納入をお願いします。）

越後支部口座

金融機関…ゆうちょ銀行

加入者名…

公益社団法人 日本山岳会越後支部

口座記号…0056003

口座番号…103716

支部年会費…2,000円

（会友は3,000円）

●支部晩餐会の開催予定について

今年度の支部晩餐会を、12月13日（土）、新潟市中央区弁天2-1-6、新潟東映ホテルにおいて開催予定ですので、支部会員及び会友の皆さまからのご参加をお待ちしております。正式な開催案内と出欠連絡方法につきましては、後日ご案内申し上げます。

編集後記

ようやく長かった暑い夏も終わり、低山でも涼しく登られるようになるだろう。今年は熊の被害や出没情報が連日報じられ、悲しいことに登山者から犠牲者が出た。堅果類も不作、凶作らしいので入山の際は十分に注意したい。

最近、熊が人を襲う原因に「熊の人慣れ」があるとも言われている。熊に出会わないようにしたり、出会った際に被害にあわないように対策することも必要だが、山に食べ物置いてこないなど餌付けに結び付くような行動や、近くで熊を見つけた際にスマホなどで撮影するなどの「熊の人慣れ」に結び付く行動が登山者の身に危険が及ぶきっかけになることも周知したいものだ。安全のために出来るだけ複数の行動が求められているが、高齢化が進み山に行く仲間も減り、単独行が増えた身には辛いものがある。（諏訪恵一）